

H27地域協働研究（地域提案型・前期）

RN-01「ILC建設に伴う外国人の医療環境整備へ向けた取組に関する研究」

課題提案者：岩手県政策地域部科学ILC推進室

研究代表者：盛岡短期大学部 石橋敬太郎

研究チーム員：吉原秋、熊本早苗（盛岡短期大学部）、細越久美子（社会福祉学部）、蛸崎奈津子、アングアホツ
ファ司寿子（看護学部）、佐々木淳、宮昌隆、佐藤智行（岩手県政策地域部科学ILC推進室）

<要 旨>

平成25年8月に岩手県の北上山地が「国際リニアコライダー」(ILC)の国内建設候補地として選定されたこととともない、外国人研究者・技術者とその家族の受け入れ態勢の具体化を図るとともに、地域国際化を推進し、高い次元での多文化共生社会の実現を目指すことが課題となっている。本研究では、外国人が安心して地域で生活できるよう、地域国際化の一つとして岩手県内の医療環境の現状と課題を調査した。調査の結果、日本と外国との医療文化の相違を外国人、医療機関とも認識する必要性を提案した。

1 研究の概要（背景・目的等）

国際リニアコライダー（ILC）建設にとともない、ILC国際科学技術研究圏域における外国人数は、建設開始から20年目で3,000人超増加する見込みといわれている。外国人研究者とその家族が安心して生活するためには、地域の飛躍的な国際化の必要性が指摘されている。

地域の国際化を推進する上で、本研究では外国人の医療環境の整備に向けた課題の整理及びどのような取組をするべきか具体化を図ることを目的とする。外国人が安心できる医療提供のための対応方向として、高エネルギー加速器研究機構は次の6項目を挙げている（表1）。

- ・医療通訳の育成と要請に応じた派遣
- ・外国語対応可能医療機関情報（リスト）の作成と配布
- ・薬局（ドラッグストア）の国際化対応
- ・医療機関（診療所、総合病院）の国際化
- ・緊急通報システム、緊急搬送システム等の整備・充実
- ・緊急医療機関の充実

表1 外国人が安心できる医療提供のための対応方向¹⁾

医療通訳者派遣については、国内では神奈川県や愛知県などにおいてNPO等が主体となり、先駆的な取組を行っているが、岩手県では全県的な医療通訳者は整備されていない。県内の医療機関情報については、ポータルサイト「いわて医療情報ネットワーク」を通して外国語で対応できる病院、診療所などの医療機関情報を提供している。また、岩手県国際交流協会のほか、奥州市国際交流協会など一部の国際交流協会において医療通訳者を派遣する事業を実施しているものの、一部地域に限られている。さらに、「医療通訳等の拠点整備事業」といった国の制度に岩手県の医療機関は該当していない。こうした現状を踏まえ、岩手県内に居住する外国人を対象に、在住外国人が求める支援等を明らかにすることを目的とし、特に次の項目について焦点化して検討し、課題を整理することとした。

ア. 医療通訳派遣システムの検討

イ. 外国人向け医療情報の検討

ウ. 医療機関・緊急医療・薬局等の多言語化

以上の課題を明らかにするため、本研究では、岩手県内に居住する外国人が医療機関を受診する際や付き添いで訪れた際、あるいは薬局を利用する際に、どのような困難を感じているのかの聞き取り調査と、県庁内ワーキンググループ実施の先進地調査の分析を実施した。

2 研究の内容（方法・経過等）

2015年12月から2016年2月にかけて、岩手県内に居住する外国人のもとに赴き、直接聞き取りを行い、回答を得た。調査対象者は11人で、岩手県ないし日本に5年以上滞在していた。対象者は、配偶者などの支えがあり、日本での生活及びコミュニケーションにさほど支障のない人たちであった。

3 これまで得られた研究の成果

ア. 医療通訳派遣システムの検討

病院、薬局、歯科医で、外国語で表記された問診票（図1）を見たことがある、あるいは使ったことがあると回答した外国人は3人と少なかった。問診票を見たことがない対象者からは、ウェブ上で見ることは可能だが、パソコンがない家庭も考慮して、受付で提示するか、そこに配架するとよいとの意見があった。

医療機関での説明を理解するために、タブレット型PCを活用し母国語に翻訳している対象者が多かった。外国人研究者はタブレット型PCを持っていることが想定され、各病院・クリニックはタブレット型PC等を配置することが求められる。また、誤診を避けるためには、外国語を話せる医師、看護師が必要であるが、それに代わる体制として、医療の専門分野に詳しいプロの通訳者を病院等に常駐させるか、事前予約で派遣できる体制が望ましい。

その際には、通訳者は患者の求めに応じて、診察室内

Porma ng mga Katanungang Pang-medikal Questionnaire Form
問診票 (タガログ語)

Pakitagyan ng (田) ang tamang kasagutan. 全ての該当する項目をチェック(回してください)

Taon 年 Buwan 月 Araw 日

Pangalan 名前	Kapanganakan 生年月日 taon 年 buwan 月 araw 日 (edad 才)
Tirahan 住所	Kasarian 性別 <input type="checkbox"/> Lalaki 男 <input type="checkbox"/> Babae 女
Numero ng Telepono 電話番号	
May pang-kalusugang seguro (health insurance) kaba? 健康保険を持っていますか <input type="checkbox"/> Wala 無い <input type="checkbox"/> Meron 有る	Nasyunalidad 国籍

◆ Napaano po ba kayo? どうしましたか

<input type="checkbox"/> May lagnat (熱) 熱がある <input type="checkbox"/> Ingay sa tenga 耳鳴り <input type="checkbox"/> Baradong ilong 鼻づまり <input type="checkbox"/> Ubo 咳 <input type="checkbox"/> May dugo ang plema 血痰 <input type="checkbox"/> Masakit ang dibdib 胸高 <input type="checkbox"/> Masikip na sakit sa dibdib 胸がしめつけられる <input type="checkbox"/> Iksi ng paghinga 息切れ <input type="checkbox"/> Masakit ang likod* 背高* <input type="checkbox"/> Dighay げっぷ <input type="checkbox"/> Nagsusuka 嘔吐	<input type="checkbox"/> Masaki tang ulo 頭痛 <input type="checkbox"/> Sinisipon 鼻汁 <input type="checkbox"/> Natutuyot ang bibig 口が乾く <input type="checkbox"/> Sumasakit ang lalamunan のどの痛み <input type="checkbox"/> Plema (sipon sa lalamunan) 痰 <input type="checkbox"/> Mabilis/ malakas ang pintig ng puso 動悸 <input type="checkbox"/> Nahihirapang huminga 胸が苦しい <input type="checkbox"/> Tumutunog ang paghinga ぜいぜいヒューヒュー <input type="checkbox"/> Payrosis (Heartburn) 胸やけ <input type="checkbox"/> Naduduwal 吐き気
--	---

*Pakitagyan ng marka ang parte kung saan kayo nakakaramdam nang sakit.
*その患所に丸印を付けてください

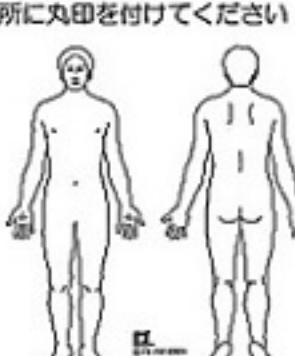
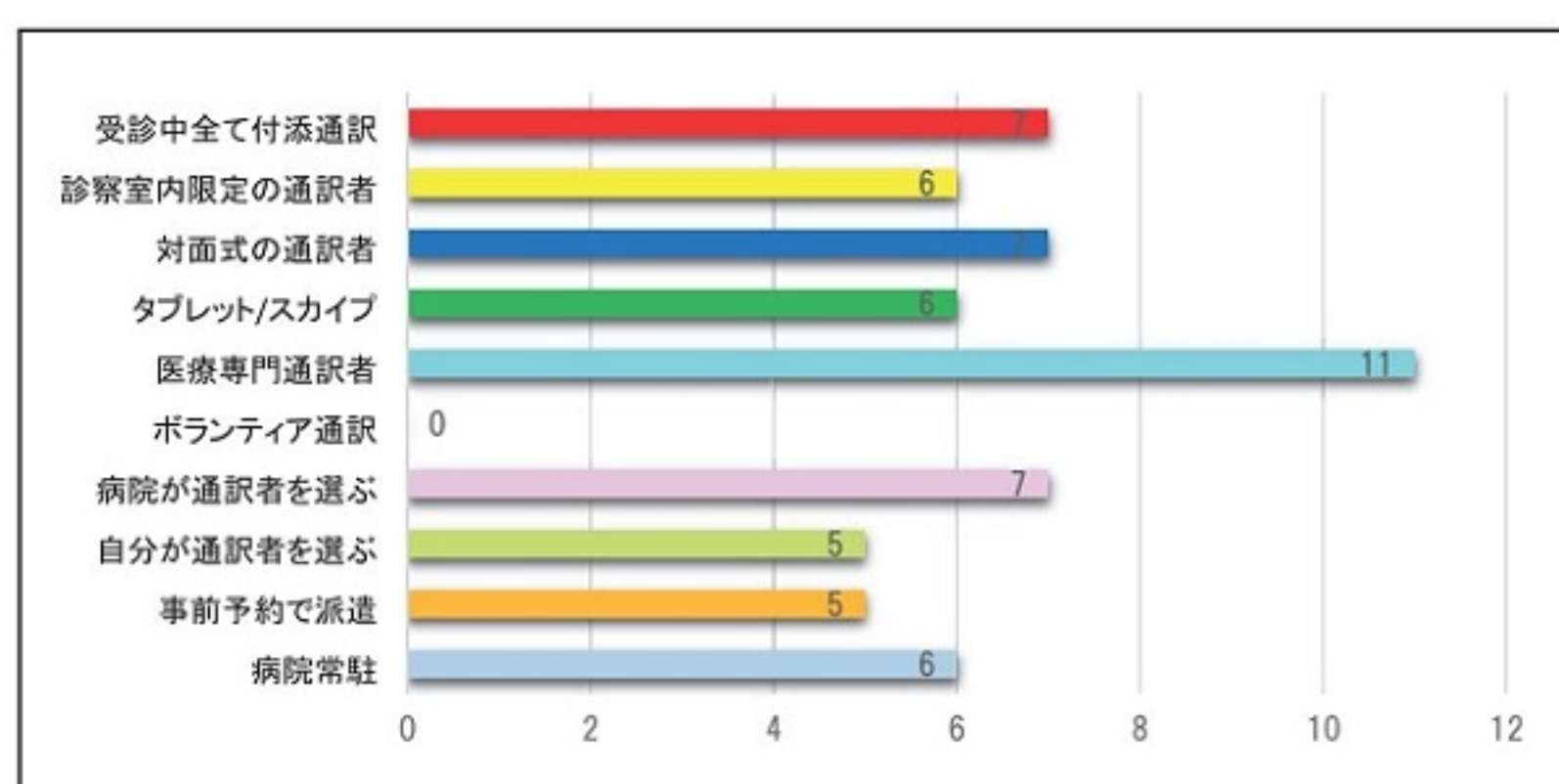


図1 岩手県の多言語問診票 (タガログ語版)²⁾

だけでなく、受付から診察、会計までの一連の過程の間付き添うことが望ましい (グラフ1)。現状では、医療通訳に対する診療報酬は反映されておらず、医療機関や利用者の負担、公的資金での対応等が必要になる。



グラフ1 希望する医療通訳サービス

イ. 外国人向け医療情報の検討

医師などが患者に対して擬音語を避ける、ゆっくりと話す、紙に書く、病状・治療・処方箋などについて丁寧な説明をするといった言語上の問題を解決することが必要となる。あわせて、外国人のもつ医療文化を医療機関が理解することが重要である。たとえば、医療機関は、病状をリスト化して説明し、治療の方法等に選択肢を与えること、外国人がセカンドオピニオンを取り、他の症状との関連で病状を判断するといった医療文化を理解する必要がある。

他に、「個」の文化を背景にもつ外国人にとって、待合室などで他の患者の前で病状・症状を聞かれるのはプライバシーを侵害されていると感じるため、診察室での対応が求められる。

岩手県でも、ホームページなどで英語対応可能なクリニックを紹介しているが、実際に行ってみたら対応不可能であったという事例があった。ホームページの定期的な更新が必要である。また日本には、GP (総合診療医) の制度がないため、24時間外国語対応の窓口を設置し、外国人に周知する必要もある。

ウ. 医療機関・緊急医療・薬局等の多言語化

アメリカ合衆国やカナダでは、患者は病院ではなく、ドラッグストアで一般市販薬を購入し、治療する文化であることを認識しなければならない。その対応策の一つ

として、多言語対応はもちろんのこと、薬は選択できるようにするのが望ましい。

また、文化・宗教上の理由で輸血が禁止されていたり、女性医師が望ましい場合もあるため、外国人に対し平常時から医療を受ける際に配慮が必要な事柄を記載したカードを準備しておいてもらう、または医療施設で初診受付時にそのような事柄を把握する用紙を準備することなど対応策の検討が必要である。さらに、緊急の手術などの場合、日本では家族に話をするが、患者自身が話ができるのなら、本人に事前説明をすることで、手術等への不安を低減することができる。

4 今後の具体的な展開

本調査研究の過程において、外国人女性の出産と夜間や休日の救急対応が多い子どもの受診の際の医療環境の整備は、家族が安心して暮らす上で欠かすことができないことが明らかになった。出産に関しては、各文化において食事や動静などにおいて禁忌や推奨事項が異なるなど多様な文化的ニーズが要望されることが多い。また、子どもの受診には、急を要する対応が検討される状況が予測され、そのため家庭の中での外国人女性の果たす役割が大きく、言葉の問題のほか、医療文化の違いが誤診等を招く機会をはらんでいる。本研究では、これらの課題を解決すべく、次の研究を実施する。

- ・外国人女性の出産にかかる情報提供の検討
- ・子どもの受診にかかる外国人女性の支援と医療情報の検討
- ・医療機関・緊急医療・薬局等の多言語化に関する検討

5 その他 (参考文献・謝辞等)

年度末間際のお忙しいさなか、お時間を割いてくださった奥州市国際交流協会の職員の皆様、ゆうの会の皆様、快く調査研究にご協力してくださった外国人の皆様、心から感謝申し上げます。

- 1) 北村倫夫・片岡俊正編 2014「国際リニアコライダープロジェクト立地に関わる調査検討報告書」高エネルギー加速器研究機構。
- 2) 岩手県公式Webサイト、教育文化、国際・多文化共生「多言語問診票等を御活用ください」
<http://www.pref.iwate.jp/kokusai/tabunka/003377.html>